

尊厳死宣言の米女性死亡

「家族、友人よ、さようなら。世界は美しかった」

【ロサンゼルス＝中村将】末期の脳腫瘍と診断され、尊厳死が合法化されている米西部オレゴン州に移住して「11月1日に投薬で死ぬ」と予告していたブリトニー・メイナードさん(29)の写真(A.P.)が死亡したことが分かった。A.P.通信などが



2日報じた。予告通り1日に死亡したという。尊厳死を推進する民間団体のスポークスマンによると最期は自宅寝室で、家族ら愛する人たちの腕の中で穏やかに迎えた。医師が処方した致死量を超える鎮痛剤を服用したという。メイナードさんは最近、「決断は2日以降になるかもしれない」とも述べていた。

メイナードさんは今年1月に脳腫瘍と診断され、4月に余命半年と宣告された後、カリフォルニア州から、死を選ぶ末期患者への医師による薬剤の処方方が認められているオレゴン州に夫や母親と転居していた。

メイナードさんはフェイスブックに「愛する家族、友人よ、さようなら。世界は美しかった。旅はいつも私の最良の教師だった」と書き込んだ。メイナードさんの死を受け、ネット上では賛否両論が交錯した。「今でも彼女を支持してい

「24面」日本では